

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2771300346		
法人名	医療法人 桐葉会		
事業所名	グループホームコスモスガーデン		
所在地	大阪府貝塚市森853		
自己評価作成日	平成 30年 7月 30日	評価結果市町村受理日	平成 30年 11月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2771300346-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 10月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来「利用者の個別性介護を大切に」を目標に運営してきました。個人の生活習慣を守るようにし、日常生活においても、就寝・起床時間などの規則はありません。職員は入居者の思いに寄り添いながら、関係を築く努力をしています。ご家族様にも、施設の行事に参加しやすいように工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体のグループホームで、近くに同法人の老人保健施設があります。4つの介護理念を基本に「自分らしくいきいき暮らせるように」との考えで、自宅のようにリラックスできる雰囲気大切にしています。リビングに置かれた大きなテーブルの上には花を飾り、果物やお菓子類を置いて自由に食べることができる家庭的な環境です。3食手作りの食事でも利用者に喜んでもらっています。リビングから聞こえてくる笑い声や会話は、利用者が中心になっています。日中、玄関やエレベーターは開放し、「利用者の行動を制しない」という設立時からの精神は、職員に引き継がれています。母体の法人からの医療面の支援も充実しており、利用者・家族の安心に繋がっています。「職員が利用者のために、細かいことまで工夫してくれる」と職員の頑張りを評価・承認する管理者の下、グループリーダーを中心に、さらなるサービスの向上に取り組んでいるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らすことができるように、4つの介護理念を確立している。職員が行ったサービスで理念の何に当たるかをカンファレンスや、機会があれば話し合いを行っている。	「私たちは、1. 今までの生活リズムを守ることができる環境を提供する。2. まだ人のために役立っていると思うことができる環境を提供する。3. わがままを言えることができる環境を提供する。4. その人らしく生きることができる環境を提供する。」の介護理念を掲げ、毎日の支援にあたっています。理念は玄関に掲示し、家族や地域の方にも理解してもらえるようにしています。また、利用者が毛筆で書いた介護理念も調度品のようにリビングに掲示しています。毎日の朝礼で介護理念の唱和を行い、職員間で理念の確認を行っています。	今後は、理念に沿って年度ごとに目標を立て、さらなる理念の実践に繋げてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	スーパーへの買い物や、気候が良い時は、外へ散歩にでかけたりし、自然な形で地域との交流をするようにしている。 又、同法人内にある、介護老人保健施設のレクリエーションへの参加も行っている。	ホーム開設以来、地域社会とつながりながら、利用者一人ひとりがその人らしく生き、継続した暮らしができるよう、環境を整備・提供することに力を入れています。近隣のスーパーや商店等への買い物や、ホーム周辺の散歩、地域清掃に参加する等、利用者が日常的に地域と交流をする機会があります。近隣小学校の世代間交流行事や地域行事の祭りに参加しています。ホーム前や馴染みの商店の軒先でのだんじり見物は、利用者・利用者家族・職員の穏やかで楽しい時間となっています。また、他グループホームの職員と連携し、月1回「認知症コンシェルジュ」と題してブースを設け、グループホームや認知症等について、説明や相談の支援を行い、地域に貢献しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域のグループホームと協力して、認知症を持つ家族参加の相談支援を行う場を設け、認知症の理解を働きかけたり、グループホームについて説明を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・入居者・民生委員・役所などからの意見は検討し実施している。	運営推進会議の規程を定め、2ヶ月に1回開催しています。会議のメンバー構成は、利用者・利用者家族・民生委員・市職員・地域包括支援センター職員・ホーム職員です。会議では、利用者の生活状況や行事の報告、法人内研修や勉強会等、利用者の暮らしとホームの取り組み内容を具体的に説明して意見を交換し、会議で得た助言をサービス向上に活かしています。会議は利用者の暮らしがわかるリビングで開催しています。会議の議事録は、次回の会議日程についても記載をし、利用者家族に送付しています。	利用者・利用者家族が気軽に、そしてより多くの参加が見込まれるよう、定例化している秋の行事(ガーデン祭)の後、引き続き運営推進会議を開催することも考えられます。検討されてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者依頼があったときなどは、積極的に市町村担当者に連絡し、サービスの向上に努めている。また、困った事例等あれば速やかに連絡相談している。	市の高齢介護室担当者とは、解らないことや困ったことがあれば、その都度相談できる関係を築いています。近隣の5市1町相談事業による認知症相談支援センターにも参加しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員が人的環境を整え、症状が緩和するよう努力している	日中、玄関やエレベーターは開放し、設立時からの「利用者の行動を制しない」という精神は、職員に引き継がれています。利用者が外出しそうな様子を察知したら、職員と一緒に外出するなど、自由な暮らしを支援しています。身体拘束委員会による身体拘束廃止に関する研修を2ヶ月に1回実施し、利用者の尊厳を守るケアの確認を行っています。また、法人のハラスメント委員会によるポスターを掲示し、利用者にストレスを感じさせないケアについて考えるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での介護行為に対して、定期的に検証し、カンファレンスで話し合っている。法人内の人権擁護研修会に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体をもって対応可能。研修参加も行っている。家族からの相談があれば速やかに進めていく体制は整えている。現在2名の方成年後見人制度対象の方がいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に、本人・家族に施設を見学してもらい、サービスの内容・料金の説明をしたり、疑問や不安などがあれば話し合いを行い、納得してから契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内には意見箱を設置し、無記名で投稿できるようになっている。苦情を受けた時すぐに対応できるように苦情受付書類を準備している。問題点を明らかにしカンファレンス、送りで周知している。又、市町村にも報告を怠らないようにしている。	利用者・利用者家族が意見や要望を職員へ自然に表わすことができるよう、雰囲気づくりに工夫をし、運営に活かしています。最近では、利用者家族から、「行事についての連絡や報告をする手段の統一化を図ってみてはどうか」という助言を得て、全利用者家族に書面で連絡・報告を行い、理解を得ています。また、職員からの提案で、利用者家族への連絡や依頼について、どのような対応を行ったかが確認できる様式を作成し、職員間の共有化を図っています。ホーム便り「ガーデンの四季」は、定期的に発行しており、利用者の笑顔溢れる日常を分かりやすく掲載しています。今後、利用者や利用者家族にテーマを決めてアンケートを実施し、回収方法としてホーム内に設置している意見箱を活用する他、遠方に住む利用者家族からは郵便等で回収をする予定です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全員出勤の勤務を組み、その時に業務・介護ケアカンファレンスを実施している。その場では、職員が自由に発言できる環境を作り、決まったことは全員で実行するようにしている。	月に1回、職員全員が出席する会議で、研修、業務カンファレンス、利用者一人ひとりのカンファレンスを行っています。欠席する職員は、事前にリーダーへ意見を伝えています。日常的にも意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。グループリーダーは、利用者も職員も居心地のよい環境づくりを心がけ、職員の声を尊重しながら、積極的に業務改善を行っています。最近では、職員の休憩について見直し、安心して休憩できる体制を作りました。管理者から「職員が利用者のために細かいことまで工夫してくれる」と評価・承認されている職場環境は、職員の士気を高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護処遇改善に取り組み、給料水準の向上、介護用具を購入し、職場環境を整え各自が向上心を持って働けるように努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・法人外の研修に参加してもらっている。研修後に、報告書を出してもらっている。月1回のカンファレンスでは、書記を順番に回るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム・老健・支援事業所と定期的に会合の機会を持ち、意見交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の程度によるが、施設見学、または、施設からサービス利用先へ訪問するなどし、本人とゆっくりと面談するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは見学に来た際や、相談を受けた時に、困っていること・悩みなどを受け止められるように拝聴している。援助できることを具体的に説明している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を聞き、必要に応じて情報を提供している。対応できない時は、それぞれの専門職に協力を依頼し、サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり、料理をしたり、共にするという意識している。職員は疑似家族として、入居者に尊敬の念を持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際に、雑談をしながら、入居者との時間を楽しく過ごせるように支援している。又、近況を話しながら、今後の方向性を話している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・親戚・近所の方が面会に来た際は、お茶を出し、部屋でゆっくりと話などをし、過ごしてもらっている。	友人がホームを訪問することがあります。友人の訪問時には、お茶の接待をし、ゆっくり話ができるように支援しています。馴染みの美容院や墓参りに出かける利用者もあります。入居後の新たな馴染みの関係も大切にし、職員は、利用者同士励まし助け合う姿に貴重なことを学び、グループホームで働く喜びを感じています。	利用者一人ひとりが培ってきた人間関係や社会との関係の情報を把握し、記録に残すことができるシート等工夫されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度・性格・生活過程などを考慮し、スムーズに関わることが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関などに入院しても、必要に応じて家人と面談をし、方向性を話し合っている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活や日々の話の中で、本人のニーズ等を見つけ出すようにしている。又、家族からの話も、大切にしている。得た情報を職員間で共有・ケアプランに反映している。	職員は、毎日の生活場面の中で、利用者の意向や希望を聞き取り、一人ひとりに合わせた支援を行っています。「言葉で表現できない利用者から思いを汲み取ることが楽しい」と職員が言うように、思いや意向の把握に努めています。日常の関わりの中での気づきや発見は、随時口頭で伝え共有しています。	今後は、日常の関わりの中での気づきや発見等を記録に残して職員間で共有し、よりその人らしい支援に繋げることが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族・サービス事業所から得た情報を考慮し、ケアプランを作成している。 24時間の生活パターンを大切にした介護サービスを提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の日々の状態を観察し、その中で気づいたこと・状態の変化を、主治医・看護師・ケアマネ等に報告し、情報収集を行い、観察項目を決定し、ケアプランに反映している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別介護実施表を作成し、ADL・IADLなどを観察し、情報を共有している。日々観察を行い、変更が可能な独自の介護サービス表を作ってケアに反映している。	入居時、利用者や家族の意見・要望を基にカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。毎月、職員全員参加の会議で、介護計画をもとにそれぞれ意見を出し合い、モニタリングをしています。カードインデックスを用いて介護計画の情報の共有を行っています。計画作成担当者は、「利用者ができることを維持していく介護計画」を心がけています。課題解決型ではなく、どのようにしたいか、何ができるか等の視点も大事にしていく考えです。また、利用者や家族によりわかりやすい介護計画を作ることも大切にしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「個人介護サービス表」「アセスメント」「介護記録」「カードックス」を使用し、実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の場合、原則は家族に同行してもらうが、キーパーソンが闘病中などの場合は、施設職員が同行し、援助している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が入居者の地元であるため、親戚・知人・友人等が頻繁に面会に来ている。又、地域の小学校の交流イベントへ参加したりし、関連施設の利用者との交流も支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、3～4 週間に1回外来主治医に情報を提供し受診している。それ以外にも、状態の変化があれば主治医に相談・往診・診察を受けている。専門的な治療が必要な時は、家族に連絡し、希望の病院を聞き対応している。	入居前からの医療機関へは、希望があれば受診可能です。母体法人が病院を運営していることで、医療連携体制がとれており、協力医による往診や看護師による健康管理が充実しています。往診の結果、体調変化や薬の変更等があれば、都度家族に報告しています。母体法人からの医療面の支援の充実は、利用者・家族、そして職員の安心に繋がっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師が常勤しているので、気付いたことをその都度、報告・相談している。又、准看護師は、法人内施設の看護師協同し、入居者の健康管理にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、入院先の主治医の所見・家族の意向等を確認し、退院後の方向性決めている。又、医療機関と情報を交換したり、その都度相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・外来主治医・看護師・ケアマネ・介護職員と、定期的に話し合い、将来的なことを含め方向性を出している。毎日の送りやりや月 1 回のカンファレンスなどで周知している。希望があれば、看取りの対応も実施していく。終末期のあり方については、家族・本人の望むことに向き合えるように、職員教育をしていく必要がある	入居時には「急変・重度化時の対応マニュアル」に沿って説明し、利用者・家族の終末期の希望や意向を確認しています。看取りに関する指針も作成しています。終末期に関しては、家族・医師・職員で改めて話し合います。これまで看取りケアを実施した利用者もいます。母体病院から医療面の協力を得て、ぎりぎりまでホームで生活できるように支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、いつでも対応できるように提示している。緊急時は、法人の医師や看護師に相談できる仕組みになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の施設課指導の下、定期的に避難訓練を年 2 回と、コスモスガーデン独自の災害訓練も適時実施している。連絡網を作成し、警察署・消防署などとの連携を図りながら、利用者の安全を確保できるように努めている。	災害・緊急対応マニュアル及び夜間・休日火災発生時対応マニュアルを作成しています。法人と合同の避難訓練を年2回、ホーム独自の災害訓練も実施しています。災害が起きた場合は、母体病院に連絡を入れ、応援に駆けつけてもらえるよう、連携を図っています。非常災害時の水や食料も準備しています。平成30年9月の台風時には、断水・停電になりましたが、備蓄の食料で食事にはさほど不自由さを感じることなくすみました。	平成30年9月の台風での対応を振り返り、災害・緊急対応マニュアルの見直し・改訂を実施されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	指示的・命令的などの言動については、注意し、日常的に職員も意識し対応している。時々、入居者・家族からの指摘がある。その都度、個人指導・全体指導を行っている。プライバシーの保護に関しても、送りやカンファレンスで周知している。	管理者は、日常の中での利用者の尊厳に配慮したケアについて、職員に具体的に伝えています。接遇に関する研修も実施しています。職員は、髪や服の乱れや身だしなみへの気配りなど、些細なことを考えることも大切にケアにあたっています。また、「相手はどう感じるか」「相手が不快に感じていないか」心に留めながら日常のケアを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護理念に掲げ実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の時間に、職員が合わせて介護サービスを提供するように周知している。職員の都合で、介護しないように指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望を聞き実践している。 時には、家族に美容院などに連れて行って下さるように声掛けをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片づけ・洗物など、職員と入居者が一緒にすることを心掛けている。食事の際も、職員が入居者の間に入り、楽しい雰囲気の中で食事が出来るような話題を提供している。食事介助が必要な方には、さりげなくサポートしている。	調理専従の職員を配置し、3食ともホームで調理しています。献立を作成する上で、「栄養バランス」を考慮し、利用者一人ひとりの好みを反映しながら、毎日の食事が楽しみなものになるよう支援しています。利用者は、食材の下準備・調理・配膳等、職員とともにを行っています。また、さまざまな食事形態にも柔軟に対応しています。利用者と職員は、盛り付けの際「彩り」を大事にし、視覚でも楽しめる食事の提供に努めています。昼食時は、利用者と職員が隣同士に座り、明るく楽しい雰囲気の中で食事を摂る風景が見られます。職員は、食事介助が必要な利用者には、さりげなく声かけや見守りを行い、安全に食事が摂れるよう支援に努めています。天候の良い日には、ホーム庭先で15時のティータイムを提供し、利用者の気分転換につながっています。利用者の誕生日当日には、利用者の好きな食事を提供し、利用者・利用者家族・職員が「家庭的」な雰囲気の中で祝い、レクリエーションを楽しんでいます。流しそうめんやバーベキュー等、行事の際の食事は、利用者・利用者家族に好評を得ています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	木島病院の管理栄養士から、必要に 応じて相談・指導を受けられるような体 制をとっている。水分に関しても、入居 者の好みの飲み物を何時でも飲める ように冷蔵庫にジュース・牛乳などを常 備している。むせ込みが多い方には、 ゼリー状にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。 自身でできない方には、個別に口 腔ケアを実施している。 毎週1回歯科の往診あり。家族・本人 の希望があれば、歯科衛生士による、 口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	訴えることが出来ない入居者にも可能 な限り、トイレで排泄してもらえるよう にトイレ誘導を行っている。失禁が多い かたも、行動などを分析し、排泄パター ンを探っている。見守りが必要な方に は、自尊心に配慮し、サポートを行って いる。	安易にオムツを使用しないように、トイレでの排泄を基本としています。職員は排泄チェック表をもとに利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しています。個々の状況に合わせて、さりげなく声かけし、誘導、見守り等行い、排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難な方は、主治医と相談し、本人にあった下剤でコントロールしている。状況に応じ、看護師に報告し、調整も行っている。飲食物も入居者の嗜好に合わせて提供している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、平等に入浴してもらうようにしている。便失禁した入居者には、時間に関係なく、その時の状況に合わせて入浴してもらっている。	毎日入浴ができる体制を整えています。希望があれば毎日入浴が可能です。希望があれば毎日入浴が出来ます。入浴時のシャンプーや石鹸は、利用者一人ひとりの好みの物を使っています。風呂場では、それぞれ好みのシャンプー・ボディシャンプー・固形石鹸等がたくさん並び、個別ケアの実施状況を見ることができます。ゆず風呂等の季節風呂も提供し、利用者に入浴を楽しんでもらえる工夫を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は特に決めていない。一人ひとりの生活パターンに合わせている。日中も、一人ひとりの体力的なものも考慮し、状態に合わせて休息してもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬を個別にカードデックスに記入し変更があればその都度変更している。毎日の申送りに使用し、全員周知している。効能や副作用についても、別にファイルにし、いつでも見ることができる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや料理参加など、家事活動に参加してもらえるように心掛けしている。気分転換に外に散歩に行ったり、皆で歌を歌ったりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日などは、庭でお茶会をしたり、法人内を散歩したりしている。帰宅要求から、外に出てしまう方には、暫く付き添い様子を見ている。買い物好きの方には、スーパーへの買い物に同行してもらっている。	職員は、天候や利用者一人ひとりの身体機能の低下に伴い、一部の利用者への外出支援が減少していることは課題であると認識しています。グループリーダーは、今後1対1での外出支援に取り組むため、利用者一人ひとりに担当制を導入する等、更なる業務の見直し・改善に重点を置き、積極的に取り組む予定です。ホームの行事として、文化園の散策や春と秋の遠足等は、利用者・利用者家族・職員の親睦をより深める機会となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や財布を持つことで安心する方には、家族に許可を経て本人に所持して頂けるようにしている。買い物などをしていときには、預り金を置いている為、いつでも買い物をすることが出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をかけたい時は、公衆電話からいつでもかけることができるようにしている。1名携帯を持っている。又、手紙なども出せるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間で過ごされていると、食事の匂いや、食器を洗う音などの生活音が聞こえてくる。 居間のテーブルなどに、季節の花を飾っている。	玄関周りには、家族ボランティアの協力で花が植えられ、利用者はもちろん、訪問者も楽しんでいます。共有空間のリビングは広くゆったりとしています。暖色系の照明で温かい雰囲気です。中央に大きなテーブルがあり、花を飾り、季節の果物やお菓子などが置いてあり、好きな時に食べられるようになっています。ソファも柱の陰に配置したり向きを変えるなど、1人になれる場所作りへの配慮が、利用者目線です。壁には、行事や外出時の利用者と職員の笑顔の写真が飾られています。公衆電話を設置し、利用者が不安になった時等、家族や知人と自由に話ができるようになっています。オープンキッチンからは、ご飯の炊ける匂いがし、食事の準備の音が聞こえ、家庭的な雰囲気を作っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に観葉植物を置き、落ち着けるようにしている。又、気の合った入居者同士で話をしたり、自由に休めるようにソファを置いている。畳コーナーも設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や、使い慣れた物などを持ってきてもらえるように、声を掛けている。	ベッド、テーブル、冷暖房機器はホームの備え付けで、利用者は、タンスやテレビ、椅子等使い慣れたものを持ち込み、居心地のよい居室となっています。仏壇を持ってきている利用者もいます。自宅での生活スタイルを継続するため、布団を敷いている利用者もいます。居室入口には、一人ひとり違うマスコット付きのネームプレートが掛けられています。また、プライバシーを守るため、各居室に暖簾が掛けられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時間がかかっても、できることは行ってもらえるようにしている。状況に応じて、介助を行うこともある。家事手伝い等も、座って出来る事などの環境作りを心掛けている。		